

第4次 佐久の先人 紹介文(原稿および記念式典ナレーション案)

非公表

資料 2

No.	氏名	生年	没年	表題・リード文(案)	
1	小林 文素 こばやし ぶんそ	1769	1826	原稿	「日本で唯一の解体人形を作成した」 田野口村に生まれ、幼名を加蔵、通称文素という。代官所に仕えて、江戸を往復し、『解体新書』と出会い、その図に基づき、各臓器を模した精巧な人形を製作した。これはわが国解剖学史に残る現存唯一の解体人形で貴重。(101字)
				ナレーション案	「日本で唯一の解体人形を作成した」 田野口村で生まれた文素は、代官所に仕え江戸を行き来していました。そこで『解体新書』に出会い、その図をもとに人間の臓器を再現した精巧な人形を作りました。この人形は、日本解剖学史に残る、現存する唯一の貴重な人形です。
2	伴野 友彦 ともの ともひこ	1747	1834	原稿	「庶民の教育に尽くした江戸後期の神学者」 入沢村の神官の家に生まれ、詩歌や書に優れていた。京都で石門心学を修めた後に、郷里に成章舎を開き、佐久地域に心学を広めた。手習い師匠としても子女の教育や農民の指導育成に努め、門人や寺子は5百人にも及んだ。(101字)
				ナレーション案	「庶民の教育に尽くした江戸後期の神学者」 入沢村の神官の家に生まれ、詩や書に優っていました。京都で石門心学を学んだ後、故郷に「成章舎」を開いて心学を広めました。子どもたちの教育や農民の指導にも力を注ぎ、教えを受けた人は500人にも上りました。
3	木内 芳軒 きうち ほうけん	1827	1872	原稿	「塾を開き多くの門人を育てた漢詩人」 江戸で佐藤一斎・梁川星巖ら著名な師に学び、佐久間象山とも親交があった。帰郷後は塾を開いて依田稼堂ら500人余の門弟を育てた。渋沢栄一も若い頃芳軒を漢詩の師として慕い、商用の際に必ず訪ねて親交を深めた。(98字)
				ナレーション案	「塾を開き多くの門人を育てた漢詩人」 江戸で佐藤一斎や梁川星巖といった著名な師に学び、佐久間象山とも親しく交流しました。帰郷後は塾を開き、依田稼堂ら500人以上の弟子を育てました。若き日の渋沢栄一も漢詩の師として彼を慕い、訪れるたびに親交を深めました。
4	比田井 弾右衛門 ひだい だんえもん	1840	1915	原稿	「山林行政に力を注いだ初代協和村村長」 明治維新後、村民共有の山林が国有化される中、県に繰り返し下げ戻し交渉を行い、蓼科山麓に広大な村有林を残し、村財政や村民の生活基盤を支えた。また、学校や病院などの設置、村会・郡会議員の歴任など、広域に於いても活躍した。(108字)
				ナレーション案	「山林行政に力を注いだ初代協和村村長」 明治維新後、村の山林が国有化される中、県と交渉を重ね、蓼科山麓の広大な村有林を守りました。この林は村の財政や生活を支える基盤となりました。また、学校や病院の設立に尽力し、村会や郡会議員としても広く活躍しました。
5	北原 文衛 きたはら じょうえ	1880	1968	原稿	「南佐久郡立農学校を廃校の危機から救った校長」 生徒が集まらず廃校の危機にあった南佐久郡立農学校(後の臼田高校、現佐久平総合技術高校)へ校長として赴任する。率先垂範を教育の基本理念として、学校をよみがえらせた。文部省より全国実業学校中の優良校として選奨もされた。(107字)
				ナレーション案	「南佐久郡立農学校を廃校の危機から救った校長」 生徒不足で廃校の危機にあった南佐久郡立農学校(現在の佐久平総合技術高校)に校長として赴任しました。「率先垂範」を教育理念に掲げ、学校を再建し、文部省から全国の実業学校の中で優良校として表彰されるまでに育て上げました。
6	市川 雄一郎 いちかわ ゆういちろう	1891	1950	原稿	「郷土史研究に力を尽くした」 長野県師範学校を卒業し、明治43年に中込尋常高等小学校訓導に赴任する。大正13年桜井尋常高等小学校校長となり、以後退職まで佐久地域の校長を歴任した。教職のかたわらで郷土史の研究を進め、『役筆箇から見た下小田切村』などの著書を遺した。(113字)
				ナレーション案	「郷土史研究に力を尽くした」 長野県師範学校を卒業し、明治43年(1910年)に中込尋常高等小学校の先生として赴任しました。大正13年には桜井尋常高等小学校の校長となり、その後も佐久地域の学校で校長を務めました。教職の傍ら郷土史を研究し、『役筆箇から見た下小田切村』などの本を残しました。
7	井出 幸吉 いで ゆきよし	1891	1965	原稿	「佐久の広域水道建設に尽力」 昭和20年代、佐久では集団赤痢が流行した。上水道の普及が急がれるなか、畠八村(現佐久穂町)村長として村内の水源を提供し、わが国初の地方広域水道を建設した。当時の野沢保健所長瀬下良一郎とともに「佐久水道の父」としてたたえられる。(113字)
				ナレーション案	「佐久の広域水道建設に尽力」 昭和20年代、佐久で集団赤痢が流行する中、上水道の普及が急務となりました。畠八村(現在の佐久穂町)の村長として村内の水源を提供し、農村地域では初の地方広域水道を建設しました。この功績から、野沢保健所長の瀬下良一郎とともに「佐久水道の父」として称えられています。
8	ガブリエル・ディアス	1919	2010	原稿	「宣教と幼児教育に長年貢献した」 フランス教会神父として1953年に来日。野沢地区にカトリック教会とカトリック幼稚園を創立。宣教師としてキリスト教の教えを伝え、園長としてユニークな幼稚園活動を行い、多くの園児と地域の人々に慕われた。(99字)
				ナレーション案	「宣教と幼児教育に長年貢献した」 フランス教会の神父として昭和28年(1953年)に来日しました。野沢地区にカトリック教会とカトリック幼稚園を設立。宣教師としてキリスト教を伝える一方、園長として個性あふれる幼稚園活動を展開し、多くの園児や地域の人々から親しまれました。

第4次 佐久の先人 紹介文(原稿および記念式典ナレーション案)

非公表

資料 2

No.	氏名	生年	没年	表題・リード文(案)	
9	わたなべ しづか 渡辺 静	1923	1945	原稿	「特攻に散ったプロ野球選手」 小諸商業学校(現小諸商業高校)の四番打者として活躍。職業(プロ)野球朝日軍に入団するも、学徒出陣で陸軍に入営。特別攻撃隊を志願し、第165振武隊として知覧特攻基地から出撃、特攻死した。(90字)
				ナレーション案	「特攻に散ったプロ野球選手」 小諸商業学校(現小諸商業高校)では四番打者として活躍しました。プロ野球の朝日軍に入団するも、学徒出陣で陸軍に入隊。特別攻撃隊を志願し、第165振武隊として知覧特攻基地から出撃し、特攻で命を落としました。
10	ささき まさこ 佐々木 方子	1924	2000	原稿	「佐久の音楽の裾野を広げたピアノ教師」 高校の音楽教師を勤めたあと、自宅でピアノと声楽を多くの子どもたちに教えた。「音楽を専門的に学ぶなら佐々木先生」と言われ、国内外で活躍する教え子を数多く輩出し、佐久の音楽の裾野を大きく広げた。(95字)
				ナレーション案	「佐久の音楽の裾野を広げたピアノ教師」 高校の音楽教師を務めた後、自宅でピアノと声楽を多くの子どもたちに教えました。「音楽を専門的に学ぶなら佐々木先生」と評され、国内外で活躍する教え子を数多く育成しました。佐久の音楽界の発展に大きく貢献しました。
11	もうさわ ようこ もうさわ ようこ	1925	2024	原稿	「「志縁(しえん)」を提唱した女性史研究家・思想家」 1960年代からジェンダー視点で歴史をたどり、代表作『信濃のおんな』は地域女性史の先駆けとして評価。郷里に「歴史を拓くはじめの家(現志縁の苑)」を開設し、志を同じくする「志縁」による人間解放を提唱・実践した。(101字)
				ナレーション案	「「志縁(しえん)」を提唱した女性史研究家・思想家」 1960年代からジェンダー視点で歴史をたどり、代表作『信濃のおんな』は地域女性史の先駆けとして高く評価されました。郷里に「歴史を拓くはじめの家」(現志縁の苑)を開設し、志を同じくする人々と共に「志縁」による人間解放を唱え、実践しました。
12	はらだ ましこ 原田 岸子	1926	2014	原稿	「やまびこ国体3位入賞に導いた新体操指導者」 野沢南高校他長年新体操部の指導者を務め、監督として昭和53年やまびこ国体長野県少年女子チームを第3位入賞に導いた。自他共に厳しく人を伸ばす指導法や、明るくざつくばらんな人柄で知られ、地域の子ども達や女性を中心に体操を広め健康意識の向上に寄与した。(122字)
				ナレーション案	「やまびこ国体3位入賞に導いた新体操指導者」 野沢南高校などで長年新体操部の指導を行い、昭和53年(1978年)にはやまびこ国体で長野県少年女子チームを第3位に導きました。自他共に厳しく人を伸ばす指導法や、明るくざつくばらんな人柄で知られ、地域の子どもたちや女性に体操を広め、健康意識の向上に貢献しました。
13	いで まさろく 井出 孫六	1931	2020	原稿	「時代を切り取り、人間を描き続けた作家」 作家・水上勉は「井出さんの仕事は丹念である。資料に資料をかさねて、深読する。わからぬところは訊ねにゆく」と記している。しかもその取材対象は、めぐまれないなかで必死に生きようとする有名無名の人たちだった。そして「戦争を二度と起こしてはいけない」という強い信念を生涯持ち続けた。(137字)
				ナレーション案	「時代を切り取り、人間を描き続けた作家」 恵まれない状況の中で必死に生きる有名無名の人々を取材し、その生き様を伝えました。また、「戦争を二度と起こしてはいけない」という強い信念を生涯持ち続けました。作家の水上勉さんは「井出さんの仕事は丹念である。資料に資料をかさねて、深読する。わからぬところは訊ねにゆく」と評価しています。
14	やまかわ けいすけ 山川 啓介	1944	2017	原稿	「作詞家、脚本家、舞台構成作家として活躍」 活動は大学時代から始め、流行歌、こどものうた、訳詞、CMソング、脚本、舞台構成など多彩。NHK「おかあさんといっしょ」でも作詞や人形劇の台本を手がけ「北風小僧の寒太郎」も誕生。「さく・わが市(まち)」、校歌、園歌など地元に残した歌詞も多い。(117字)
				ナレーション案	「作詞家、脚本家、舞台構成作家として活躍」 大学時代から活動を始め、流行歌やこどものうた、訳詞、CMソング、脚本、舞台構成など多岐にわたるジャンルで活躍しました。NHKの「おかあさんといっしょ」では「北風小僧の寒太郎」をはじめ、数多くの作詞や人形劇の台本も手がけました。また、「さく・わが市(まち)」や多くの学校歌、保育園歌など、地元に残る歌詞も多くあります。
15	つちや りゅういち 土屋 竜一	1964	2020	原稿	「難病と闘い続けたシンガーソングライター」 デュシェンヌ型筋ジストロフィーと闘いながら、ラジオパーソナリティ、シンガーソングライターとして活躍し「車いすのソングバード」と称された。人工呼吸器を装着しつつも楽曲制作、執筆活動等を続け、道を切り開く強さを示した。(107字)
				ナレーション案	「難病と闘い続けたシンガーソングライター」 デュシェンヌ型筋ジストロフィーと闘いながら、ラジオパーソナリティやシンガーソングライターとして活躍し、「車いすのソングバード」と呼ばれました。人工呼吸器を装着しながらも、楽曲制作や執筆活動を続け、多くの人々に道を切り開く強さを示しました。